

# 令和元年度 東小学校英語科特例校の実施状況について

大泉町立東小学校

## 1 英語科特例校の内容

小学校全学年において、「英語科」を実施する。

近年、国際化・グローバル化が進んでおり、今後その流れはますます大きくなることが予想される。令和2年度からの新学習指導要領では、3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」が新設され、外国語教育の一層の充実を図ることとなっている。そこで、令和元年度において、特別の教育課程を実施し、早期から英語の学習を始めて英語教育の充実を目指していく。

## 2 児童アンケートの結果

<質問項目>

①英語の時間は、楽しいですか？	94%
②英語の時間では、先生や友達とすすんで英語で話していますか？	80%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・英語の授業は楽しいし、中学校の勉強も楽しみに感じます。
- ・英語の力がついて、将来にも役立っていくと思いました。すごく楽しいと思います。
- ・友達や先生と英語で会話ができ、すごく楽しいです。
- ・英語の歌とゲームが楽しいです。

## 3 保護者アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	97%
②お子さんは、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	93%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・英語が好きになっているようなので、続けてもらいたいです。
- ・小さい頃から英語を聞いていれば、苦手感がなくなると思います。
- ・座って学ぶだけではなく、ゲームもあって楽しいと言っていました。
- ・低学年から英語教育を受けることで、英語に対する苦手感が私たちよりもないと感じます。とても良いことだと思います。

#### 4 教職員アンケートの結果

##### <質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	87%
②児童は、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	100%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

#### 5 成果と課題

##### <成果>

- ・座学だけではなく、いろいろな活動やゲームを取り入れた授業を行うことで、英語は楽しいものと思う児童を多く育成できた。
- ・低学年から英語の授業を行うことで、英語への苦手意識を減らすことができ、英語を身近に感じる児童を育成できた。
- ・低学年からの積み重ねがあり、中・高学年になると英語での質問などにスムーズに答えることができる児童が多く、英語力（語彙力）がついてきている。

##### <課題>

- ・英語の時間は楽しいと感じる児童の割合に比べ、授業で英語をすすんで話している児童の割合は14ポイント下回った。いろいろな活動やゲームを取り入れた授業を行っているため、活動やゲームがメインになってしまい、英語が得意な児童がたくさん発言している場面が多くなっている。
- ・授業において児童対教員でのやりとりが多く、教員からの問いに対しては英語で答えることができるが、自分から英語で質問することのできる児童が少ない。今後は、グループワークやスモールトークを取り入れ、対話的な授業を行っていきたい。
- ・英語が教科化されることを踏まえ、研修を実施したり、授業を参観し合ったりするなどして、教員の指導力向上を図っていく。

#### 6 学校関係者（学校評議員）の評価結果

- ・グローバル社会に対応し、低学年から英語教育を行うことはとても良いと感じる。
- ・英語に対する苦手感をなくすためにも、今後も続けていってもらいたい。